

社会保険田川病院 地域医療連携だより

●地域医療支援病院 ●地域がん診療連携拠点病院 ●日本医療機能評価機構認定病院 ●基幹型・協力型臨床研修病院 ●産科医療補償制度
加入分娩機関 ●福岡県肝疾患専門医療機関 ●日本がん治療認定医機構認定研修施設 ●救急告示病院 ●開放型病院

2015
vol.2

平成27年10月
発行

副院長就任にあたって

副院長 黒松 肇



このたび平成27年9月1日付けで副院長を拝命いたしました産婦人科の黒松肇と申します。昭和25年6月の開業以来田川市郡の医療の中心的な役割を担ってきた社会保険田川病院でこのような役職に就かせていただき大変光栄に思う反面、重責に身が引き締まる思いです。赴任以来、約17年間にわたり地域の先生方には大変お世話になっておりますので「ああ、あいつか」とおっしゃっていただける先生も少しはおられるかと思いますが、この機会に改めて自己紹介させていただきたいと思っております。

私は平成2年、川崎町ご出身の薬師寺道明先生が主任教授の時代に久留米大学産婦人科に入局いたしました。入局の年の12月初めに12月24日からの東京都がん検診センターへの出向を命ぜられました。

当時はまだ初期臨床研修制度などもなく、経験が圧倒的に浅い上、がん検診センターはもともと慈恵医大産婦人科の出向先でもあり、周りに全く知り合いのいない中、慈恵医大へ国内留学という形での出向でした。最初はかなり戸惑いでしたが、さまざまな大学から多くの医師が集まる中で大変貴重な経験をさせていただきました。その後大学に帰学し、久留米第一病院、県立柳川病院、久留米大学麻酔科、国立小倉病院で研修を積ませていただきました。研究面では子宮癌に所属し、平成10年には「進行子宮頸癌に対する選択的動注化学療法の基礎的、臨床的研究」というテーマで学位を取得させていただきました。

国立小倉病院に勤務していた際、社会保険田川病院に勤務していた前任の先輩が急遽開業されることとなり、何故かまだ卒後8年目の私に白羽の矢が立ち当院へ赴任することとなりました。医長心得として赴任したのは師走も押し迫った平成10年12月15日で、赴任そうそういきなり病院大忘年会の出し物の練習にかり出されました。記憶に間違いがなければ産婦人科の後輩医師と小児科の医員の先生とで女装をし、キャンディーズの「年下の男の子」を踊ったような気がします。忘年会は非常に賑やかで、各病棟や外来、事務などが対抗して出し物を披露し皆生き生きとしておりました。赴任して約1週間での出来事でしたので大変驚きましたが、病院全体に活気があり遣り甲斐のありそうな病院だという印象を強く持ちました。また、当時は久留米大学産婦人科学教室の大先輩である山田章吾先生が医長をされており公私とも大変お世話になりました。約1年後に山田先生が退職された後は大学からの派遣医師計3名で産婦人科診療に当たっておりましたが、当時は分娩が年間500件以上あり、それに加えてほぼ毎日自科麻酔の婦人科手術があるといった状態で、毎日本当にばたばたとなんとか仕事をこなしているという感じでした。余裕がなく近隣の地域の先生方には大変な失礼もあったかと思いますが、仕事としては大変充実しておりました。その後は家庭の事情もあり国立小倉病院勤務で2年間ほど田川を留守にいたしました。平成18年4月から再び当院に勤務させていただき現在に至っております。平成19年からは産婦人科部長、平成26年からは外科系統括部長という分不相応な役職に就かせていただき、何とか地域医療に貢献するべく診療して参りましたが、この度副院長という更に不相応な役職を拝命し大変戸惑っております。しかしながら、17年間、この田川市郡でお世話になり育てていただいたご恩をお返しするべく、微力ながら地域医療と社会保険田川病院の発展に力を尽くしたいと思っております。先輩である川場、植山両副院長と共に田中院長を支え、地域に愛される、職員が誇りを持てる病院にするお手伝いが出来ればと思っております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

●略歴

1990年 久留米大学医学部卒業
1990年 久留米大学病院 産婦人科
1991年 東京都がん検診センター
1992年 社会保険久留米第一病院 産婦人科
1996年 国立病院機構小倉病院 産婦人科
1998年 社会保険田川病院 産婦人科
2004年 国立病院機構小倉病院 産婦人科
2006年 社会保険田川病院 産婦人科

●所属学会と認定資格

日本産科婦人科学会（産婦人科専門医・指導医）／福岡産婦人科学会（評議員）／母体保護法指定医／日本婦人科腫瘍学会／婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構／医学博士

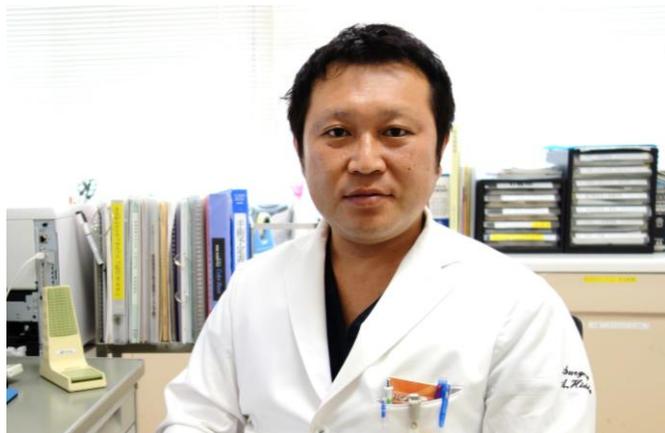


まごころと、安心と、信頼と

一般財団法人 福岡県社会保険医療協会

外科部長就任にあたって

外科部長 日高 敦 弘



先生方には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。9月1日より外科部長を拝命いたしました日高敦弘と申します。以前私が社会保険田川病院に勤務したのは、平成14年2月から平成15年10月までの1年9ヶ月間でしたが、この時の外科部長は現院長である田中裕穂先生でした。そして今回、平成25年4月からの赴任時は貝原淳先生が部長でしたが、平成26年3月をもって柳川病院の副院長兼外科部長として転勤され、その後1年5ヶ月の間、外科部長不在の期間が続いておりました。そのような状況の中、私の外科部長昇進の知らせを受け、当初は「そのような両雄の後任のポストが自分に務まるのか？そもそも第二外科所属の自分が第一外科関連病院のトップを務めても良いのだろうか？」という不安な気持ちや複雑な思いもありました。しかし、いつでもどんなに些細なことでも相談に乗ってくださる田中院長のもと、幸いなことに部下にも非常に恵まれており、上部消化管鏡視下手術のエキスパートである吉村医長、大腸・肛門疾患が専門である白土医長、消化器癌化学療法知識が非常に豊富な大地医長、そして女医で乳腺専門の竹中医長、急患を引き寄せる能力に長けた仕垣先生、体力・食欲みなぎる加来先生と、現在の田川病院外科は私が知りうる限りこれまでで最高のチームであると確信しています。これらの事情に後押しされ、今では今回の昇進は私にとって大きな喜びであるとともに、一方でこの素晴らしいチームをまとめ上げなければならぬという職責の重さに、改めて身の引き締まる思いを感じているところです。外科部長としての私の最初の仕事は、私を含めこのチームのメンバーが個々としてもチームとしても十分に力を発揮できる場を作り上げていくことではなかろうかと考えています。

当院外科は主に消化器疾患全般および乳腺疾患、呼吸器疾患を対象とし、外科治療や抗癌剤を中心とした薬物療法を行っています。診療においては、消化器内科、放射線科、病理部、栄養サポートチーム、そして緩和ケアチームなどと緊密に連携し、“がん専門病院ならではの”先進的で高質ながん医療(手術を主体とした集学的治療)の提供に努める所存です。そして、どんな時にも頼りにしていただける科として、これまで以上に地域医療の充実に努めていきたいと思っております。また、患者さんの診療に携わる全ての方々には職種にかかわらず、診療チームの大切な仲間であると認識していますので、チームとしての和を大切に、チームひとりひとりのプロ意識を尊重しながら、患者さんに安心・安全な医療を提供してまいりたいと思います。

最後になりますが、微力ながら社会保険田川病院の外科部長として全力を尽くす所存でございますので、皆さま方の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いいたしまして挨拶に代えさせていただきます。

●略歴

1997年 慶應義塾大学医学部 卒業
 1997年 慶應義塾大学病院 形成外科
 1998年 平塚市民病院 麻酔科
 1999年 国立療養所神奈川病院 外科
 2000年 足利赤十字病院 外科
 2001年 久留米大学医学部外科学教室 入局
 2002年 社会保険田川病院 外科
 2003年 久留米大学医学部外科学教室第二外科第一研究室
 2005年 国立病院機構九州医療センター 肝胆膵外科
 2006年 聖マリア病院 外科
 2011年 筑後市立病院 外科
 2013年 社会保険田川病院 外科

●所属学会と認定資格

日本外科学会(外科専門医・指導医) / 日本胆道学会(経皮経肝的診断治療指導医、癌薬物治療指導医、胆石・良性疾患外科治療指導医、癌外科治療指導医) / 日本消化器外科学会(消化器外科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医) / 日本消化器病学会(消化器病専門医) / 日本臨床外科学会 / 日本消化器内視鏡学会 / 日本内視鏡外科学会 / 日本肝胆膵外科学会 / 医学博士

内科部長就任にあたって

内科部長 相野 一



平素は、地域の診療所、病院、関連施設の先生方をはじめ関係者の皆様方には大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。平成27年9月1日付けで内科部長を拝命した相野一です。この場を借りてご挨拶申し上げます。

当院へは本年4月に着任し、7年ぶりに再びお世話になることになりましたが、それまでは久留米大学病院肝癌センターで進行肝細胞癌のIR治療を専門に日々研鑽を積んでまいりました。御存知の通り久留米大学病院肝癌センターは平成16年2月に文部科学省のCOEに久留米大学が選ばれたことを記念して本邦で初めて開設された肝癌の診断、治療に特化した外来診療施設です。肝癌センターでは消化器内科、外科、放射線科が協力して毎日常外来診療や併設施設での外来化学療法を行っています。

久留米大学病院の医療圏である福岡県南部、佐賀県東部地区は、非常に肝細胞癌の患者さんが多い地域であり、毎月500人以上の患者さんが受診し、年間700例以上のIR治療を行っていました。消化器内科では、以前から外科学教室、病理学教室と協力して肝細胞癌の診断・治療はもとより、その基礎的検討にも力を入れており、国内外から高い評価を得てきました。私自身もグループに属し、肝細胞癌に対する最先端の診断技術・治療を提供するだけでなく、より効果的な診断技術や治療法を開発すべく肝細胞癌治療のトピックスである分子標的治療薬を用いた臨床治験や医師主導の臨床研究(TACTICS:ソラフェニブとの併用試験)を学内において担当し、肝外転移を伴う進行肝細胞癌の予後予測因子、TACE不応肝細胞癌の予後予測因子の同定等、臨床研究に取り組んでまいりました。進行肝細胞癌の治療は過渡期にあり、分子標的薬のmix、DEBを含めた新しい塞栓剤の国内導入、マイクロバルーンカテーテルを用いたIRと既存のConventional-IRとの比較研究が現在盛んな状況ですが、今なお根治が得られない進行肝細胞癌の課題は山積みとなっています。久留米大学病院では15年も前から高度進行肝細胞癌患者に対して動注化学療法(NFP、LFP)を積極的に行い、高い奏功と多くの予後延長結果を得た患者を経験しています。この実績より県外からもたくさんの方にこの治療を受けて頂いており、AASLD(米国肝臓学会)で強く否定されている治療(動注)に関し、世界に向け果敢にその有用性の証明に挑んでいます。

さて、当院も昭和26年6月の開院以来、田川医療圏において常に中核の基幹病院として、地域に根差した医療を基本理念とし、その役割を担ってきた病院です。初期診療から救急医療、更に癌治療を始めとした高度医療を提供する内科の現場は昔も今もいつも戦争です(笑)。呼吸器、消化器、循環器、内分泌と各専門外来があり、消化器に関しては内科顧問である前川先生のもと、内視鏡、透視、IRと多様な検査・治療のニーズに応えています。当院も大学病院と同様、進行細胞肝癌の臨床試験を始め、最先端のIR治療が行える環境があり、自身もその一員として進行肝細胞癌におけるIR治療等に尽力しております。また肝細胞癌治療のみならず、癌の主要因であるC型肝炎ウイルスの新しい治療も行うことが可能です。日本では約150万人から200万人がC型肝炎ウイルスに感染していると推定されていますが、C型慢性肝炎の治療は今まではIFNが治療の主体で、その副作用、忍容性から高齢者における導入が難しく70歳以上の感染患者には長く敬遠されておりました。そんな中、昨年9月、ジェノタイプ1型患者向けの経口新薬、即ちインターフェロンフリーの新薬ダクルインザ(ダクラタスビル)・スンペプラ(アスナプレビル)が発売され、更に先月、ソバルディにレディパスビル(NS3阻害薬)を組み合わせた「HARVONI」という名の新薬がジェノタイプ1型向けに国内でも使用可能になりました。これらの経口薬は、インターフェロンを使わずに治療でき、副作用も比較的軽く、高い著効率(HARVONIの臨床試験での奏効率は100%)が得られております。これら新薬を用いた治療も当院では積極的に行っており、高齢の感染患者で副作用や長い治療期間からIFN治療を敬遠されていた方にはお奨めです。お気軽にご相談を頂ければと存じます。

最後になりますが、これからも常に質の高い医療を提供し、田川医療圏で従事される諸先輩方、また患者様から信頼されるように努力を続けてまいります。今後とも御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

●略歴

- 1999年 金沢医科大学医学部 卒業
- 2000年 久留米大学病院 消化器内科
- 2002年 戸畑共立病院 内科
- 2005年 長田病院 内科
- 2006年 社会保険田川病院 内科
- 2009年 久留米大学病院 消化器内科
- 2015年 社会保険田川病院 内科

●所属学会と認定資格

- 日本肝臓学会(肝臓専門医) / 日本消化器病学会(消化器病専門医) / 日本内科学会(認定内科医) / 日本IVR学会 / 医学博士

整形外科部長就任にあたって

整形外科部長 庄田孝則



平成25年4月より社会保険田川病院で勤務しております庄田孝則と申します。この度、平成27年9月1日付けで整形外科部長を拝命致しました。平成9年に熊本大学卒業後に久留米大学整形外科学講座に入局し、主に骨・軟部腫瘍の治療に携わってきました。骨・軟部腫瘍とは、全身の骨および皮下や筋肉などの軟部組織より発生する非上皮性の腫瘍です。原発性悪性骨腫瘍は全悪性腫瘍の約0.2%、原発性悪性軟部腫瘍は1%程度とまれな疾患ではありますが、各種画像検査や生検も含めて、良性か悪性かを早期に診断することが重要です。四肢や体幹部の“しこり”が気になる患者さんがおられましたら、御紹介いただければ幸いです。

また普段は四肢の外傷や関節、脊椎等の運動器に起こるさまざまな疾患に対する治療を行っておりますが、私自身が整形外科医となった十数年前と比べて、整形外科を受診する患者さんの平均年齢が相当上がったように感じます。たとえば腰部脊柱管狭窄症や、骨粗鬆症を伴う方が転倒して引き起こす大腿骨頸部骨折も以前より年齢が上がり、増加してきています。さらに入院での治療を行った後、退院の時に介護のことが心配になるご高齢の方も増えてきました。長寿化、超高齢化によって、人が歩き続けるということが簡単ではないことがわかってきたのが現状です。運動器の健康を維持するために、整形外科の役割は今後さらに重要になってくるものと考えられます。筑豊地区の運動器疾患の医療に、微力ではありますが精一杯頑張り、貢献していきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

●略歴

1997年 熊本医大学医学部卒業
 1997年 久留米大学病院 整形外科
 1998年 大牟田市立総合病院 整形外科
 2002年 公立八女総合病院 整形外科
 2005年 県立柳川病院 整形外科
 2006年 久留米大学病院 整形外科
 2008年 熊本セントラル病院 整形外科
 2013年 社会保険田川病院 整形外科

●所属学会と認定資格

日本整形外科学会（整形外科専門医）
 ／医学博士

●第42回 田川画像研究会のおしらせ

※日医師涯教育単位 1.5 単位（体験学習）、カリキュラムコード(31)(32)(34)が取得できます。

日時 平成27年10月19日(月)19時～
 場所 社会保険田川病院 1階講堂
 総合司会 社会保険田川病院 放射線診断科 植山敏彦

①症例検討2例

②ミニレクチャー「脳卒中ガイドライン2015とともに診る脳卒中」

社会保険田川病院 脳神経外科部長 笹平 俊一

(共催) 田川医師会・エーザイ株式会社・第一三共株式会社

— 参加希望の先生はお気軽に放射線診断科の植山までご連絡ください —



まごころと、安心と、信頼と

一般財団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険田川病院
地域医療連携室

TEL 0947-44-0474 FAX 0947-44-0559

(企画・制作)

『地域医療連携だより vol.2 (平成27年10月発行)』

社会保険田川病院 経営企画課

〒826-8585 福岡県田川市上本町10-18

TEL 0947-44-0460 FAX 0947-45-6540

Email: kikaku@s-tagawa-hp.tagawa.fukuoka.jp